

2009年6月14日実施

日弁連 法科大学院適性試験 解答&解説 4 by 数学塾

以下は、2009年6月14日に実施された法科大学院適性試験の解答、解説です。解答については、日弁連ホームページにて確認しておりますが、解説については「数学塾」オリジナルとなっています。どこよりも早い解説をWebに掲載するため、誤字・脱字、説明不足、過多もあると思いますが、少しでも皆様のお役に立てればと思います。

なお、当解説に関するご質問、ご指摘などにつきましては、

数学塾 (TEL/FAX 03-3880-1780、E-mail: fumiya@thinkingout.jp)

代表 松川文弥

までご連絡頂けましたら幸いです。

なお、解説につきましては、当塾のメインであります第2部分分析のみとさせていただきます。第1部論理についてもある程度は用意できますが、取り急ぎご了承ください。

松川文弥 (2009/6/18)

-----  
日弁連 法科大学院適性試験 第2部 「分析」

#### 【第4問】

いよいよ最終問題です。今回の問題構成だと、文系型と思われる方は第2問→第4問→第1問→第3問と進めるのがよさそうです。そこでこの問題は本番では是非取りたい(取れそうな)問題です。第3問でかなり苦手意識があった方は、第4問で挽回できたかどうかで平均点越えできるかどうかになるのではないのでしょうか？

さて、問題を読みます。アパートがあり1~8号室(全部で8部屋)あり、そこに犯人！がいるらしい。さらに時間ごとに明かりついたり消したりしている。明かり=人がいる。

次に、明かりがついている時間と、号室の条件が書かれている。

住人はA,B,C,D,E(5人！?)で犯人はこの5人のうち1人。異なる部屋に住んでいる。さらに条件で①~⑤があり、最後に外出するときは必ず明かりを消す。

という問題です。ここで？と思うことはないのでしょうか？部屋は8個あって、住んでいるのは5人？でも明かりは1~8までついたり、消えたりしている感じが条件から見える。ということは、5人+(関係ない)3人を仮想的に決めたほうがしっくりくるようです。

今回の試験で全般的に言えるのは、このように”空欄”として考えなければならないところがほとんどの問題にあることです。これが難しくする原因のようです。

さて、条件を整理してみます。まず変数は・・・

部屋：1号室～8号室、

住人：A,B,C,D,E+(関係ない)F,G,H(←とりあえずダミー変数というやつで部屋数に合うように勝手に定めます。)

時間：20～2030、2030～21、21～2130、⑤より22時。

となり、3つの変数が組み合わさって考えるようです。それならば「表」がよさそうです。

横軸は固定しているもの、または主語となるものがあるので、ここでは部屋にします。

(1号室にAが20時にいた。などのように日本語として違和感ないためです。)

	1	2	3	4	5	6	7	8
A								
B								
C								
D								
E								
F								
G								
H								
20-2030								
2030-21								
21-2130								
22時								

このような表を書けたら、まずはご自分で条件を読んで埋めてみてください。

20-2030に1, 3・・・号室に○、2号室は×(不在)というように・・・

そうすると、まずは上方にある最初の 3 つの条件から以下のようなになるはずですが。

	1	2	3	4	5	6	7	8
A								
B								
C								
D								
E								
F								
G								
H								
20-2030	○	×	○	×	○	○	○	×
2030-21	○	×	×	×	○	×	○	×
21-2130	○	×	×	○	○	○	×	×
22 時								

さらに後半の①～⑤の条件を加味していきます。

- ① 20 時に A と C が一緒に外出→20-2030 に○がついているところは A,C ともに×を入れる(その時間は不在なのだから)
- ② B は 2030、D は 2100 に外出→2030-21 に○がついている 1, 5, 7 号室の B 欄に×(不在なので) 同様に、21-2130 に○がついている 1, 4, 5, 6 号室の D 欄も×

現段階での表は、以下。

	1	2	3	4	5	6	7	8
A	×		×		×	×	×	
B	×				×		×	
C	×		×		×	×	×	
D	×			×	×	×		
E								
F								
G								
H								
20-2030	○	×	○	×	○	○	○	×
2030-21	○	×	×	×	○	×	○	×
21-2130	○	×	×	○	○	○	×	×
22 時								

基本的に表は「×」を入れていくものなので注意してください、

- ③ E は 2030 に外出、22 時に帰宅→2030-21、21-2130 のどちらか一方または両方に○がついている E 欄に×。

④ Cは2115に別の場所にいる→2115を含む21-2130に○があるC欄は×

⑤ 22時に明かりは1, 3, 4, 5, 6, 8号室→22時のところに○

ここで表は以下のようになります。

	1	2	3	4	5	6	7	8
A	×		×		×	×	×	
B	×				×		×	
C	×		×	×	×	×	×	
D	×			×	×	×		
E	×			×	×	×	×	
F								
G								
H								
20-2030	○	×	○	×	○	○	○	×
2030-21	○	×	×	×	○	×	○	×
21-2130	○	×	×	○	○	○	×	×
22時	○	×	○	○	○	○	×	○

この段階で、1号室、5号室にA~Eの犯人候補は住んでいないことがわかるので、ここは検討からはずします。ちなみに容疑者以外はあと1人いるはずです。

ここで、設問(1)をみると、なんと！！住人と部屋を断定できるものを選べということです。ここで私は本番でパニックになってしまい、この問題は思うようにできませんでした。なぜなら上の表からわかるように、未だ一つも断定できていないのです。これは設問と乖離があるので、どこかで条件を見落としている、表への○×が不足しています。ここからは本番では至難！です。試験が終われば、簡単なのですが・・・

さて、条件と表を見比べてみますと、

②Bは2030に外出し・・・⇒2030まではいた⇒20-2030は明かりがついていて、2030に消えたもの。となります。これを表から探してみると、3号室、6号室が該当します。とりあえず、Bは3, 6なので、他は×を入れます。

②Dは21時に外出⇒21前後に○→×に変わっているところがD。表から7号室のみ！が該当します。よってこれは確定。

③Eは2030に外出、22時に帰宅⇒2030前後に○→×に変わったところ&21-2130も×&22時に○のところ。表から探してみると、3号室のみ確定です。

ここまでで表は以下のようになっているはずですが。

	1	2	3	4	5	6	7	8
A	×		×		×	×	×	
B	×	×	×	×	×	○	×	×
C	×		×	×	×	×	×	
D	×	×	×	×	×	×	○	×
E	×	×	○	×	×	×	×	×
F			×			×	×	
G			×			×	×	
H			×			×	×	
20-2030	○	×	○	×	○	○	○	×
2030-21	○	×	×	×	○	×	○	×
21-2130	○	×	×	○	○	○	×	×
22時	○	×	○	○	○	○	×	○

○がついたら、その列、行ともすべて×を入れるのを忘れないでください。(○が入るのは1つなので)ここで設問へ。

(1)2130 以前の情報で断定できるもの。

- 1、Aは2号室→断定できない、不適
- 2、Bは6号室→不適
- 3、Cは5号室→断定できない、不適
- ④、Dは7号室→断定できる。正解
- 5、Eは8号室→3号室なので不適

(2)以下のうち断定できるもの

- 1、Aは8号室→断定できない、不適
- ②、Bは6号室→断定できる、正解
- 3、Cは4号室→断定できない、そもそも×なので不適
- 4、Dは3号室→7号室なので、不適
- 5、Eは2号室→3号室なので、不適

(3)断定できないものは？

- ①、Aは4号室→可能性はあるが断定できない、正解
- 2、Bは3号室でない→×があるので、断定できる。不適
- 3、Cは2または8号室→表よりどちらも空欄になっているので断定できる、不適
- 4、Dは7号室→断定できる、不適
- 5、Eは6号室でない→Eは3号室なので断定できる。不適

(4)22時で A,B,C,D,E のうち部屋にいたのは何人の可能性があるか？

1号室、5号室は明らかに違うので、削除し、そこには F,G が住んでいると仮定してよいので、F,G も削除します。(これは考え方なので、実際は表の見方で慣れるしかないです)

	2	3	4	6	7	8
A		×		×	×	
B	×	×	×	○	×	×
C		×	×	×	×	
D	×	×	×	×	○	×
E	×	○	×	×	×	×
H		×		×	×	
20-2030	×	○	×	○	○	×
2030-21	×	×	×	×	○	×
21-2130	×	×	○	○	×	×
22時	×	○	○	○	×	○

22時時点で部屋にいるのは、3, 4, 6, 8号室で4人。ここでA~Eで確定しているのは、3号室・E、6号室・Bということで2人は必ずいることがわかります。

さらに、残り 4, 8号室+2号室においてはA,C と他の H のどれかになるので、明かりについている部屋は両方が容疑者または、最低1つは容疑者であることがわかります。

(説明が足りない方は、別途問い合わせしてください。文面だと説明しにくいので、実際にお越し頂くか、メールで詳細を申し上げます。)

よって、可能性としては、最低3人、最高4人の場合がある。→正解⑤3人、4人です。

次の設問に入る前に、新たな条件が加わりました。8号室はマークしている容疑者以外であった！とのこと。ということで、表から8号室と容疑者以外のHも削除します。○×も決定します。

	2	3	4	6	7
A	×	×	○	×	×
B	×	×	×	○	×
C	○	×	×	×	×
D	×	×	×	×	○
E	×	○	×	×	×
20-2030	×	○	×	○	○
2030-21	×	×	×	×	○
21-2130	×	×	○	○	×
22時	×	○	○	○	×

さらに、犯人は22時に別のところにいる、Cではない→22時に×はCかDで、Cでない！というこ

とは D が犯人

(5)正しいものは？

- 1、2号室は誰もいない→Cがいる、不適
- 2、1号室はC→容疑者以外なので、不適
- 3、5号室はC→容疑者以外なので、不適
- ④、4号室はA→正しい、正解
- 5、5号室はA→容疑者以外なので、不適

(6)犯人は？

④の D

(批評)

簡単ながら私自身が受けた感想、批評としては、例年通り終って、復習する分には、それほど難しくなかったですが、実際に40分であの緊張している中で解くことはかなり難しかったと思います。わたくし自身も63点でした。この問題を1時間で解くのであれば、実力、考え方も計れていいのではと思いますが、40分でこれだけの量を解くことになんの意義があるのか？と思います。官庁職員のように考え方を間違わず、手際よくこなすことを求めているのであれば、よさそうですが、法曹の世界は違うと思います。もちろん瞬時に判断することは多々あると思いますが、

解説の作成に当たっては、今週末実施されるDNCでも活用できるようにコメントを書いています。解き方はもちろん問題によって違いますが、問題の読み始め、考え始め、目のつけどころはどの試験も同じです。かならず共通因数が考えの中にはありますので、そこを自ら発見してもらえたら幸いです。

この解説が少しでも皆さんの目標達成に貢献できましたら幸いです。

ご質問、ご不明な点がございましたら、「数学塾」松川宛てにご連絡ください。

数学塾(<http://www.thinkingout.jp/>)

代表 松川文弥 (株式会社シンキングアウト 代表取締役)

E-mail : [fumiya@thinkingout.jp](mailto:fumiya@thinkingout.jp)

TEL/FAX : 03-3880-1780